

令和元年
8月31日
発行

愛媛県立中央病院広報誌

い 小春日和 はるびも

2019年
第44号

ご自由にお持ち帰りください



よろしくお願いします！



4月より、当院で患者さんの看護にあたっている新人看護師です。看護師の1日は、前時間帯勤務の看護師からの引継ぎで始まり、患者さんへの療養上のお世話や注射、与薬、その他にも検査や手術など多様な業務があります。6月からは夜間勤務が始まり、先輩の仕事について回ることによって流れを体験し、仕事を覚えています。

当院全体では、1日あたり約600人の入院患者さん、そして約1,600人の外来患者さんが来院しています。四国内において最大規模の病床数を誇る当院での勤務や3交代制に最初は戸惑いもありましたが、一人でも多くの患者さんに、ぬくもりのある質の高い看護を提供するため尽力いたしますので、末永くよろしくお願いいたします。

【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地 TEL：089-947-1111



ホームページは
こちらきやん！



認定看護師紹介

手術看護認定看護師

「手術看護認定看護師」と聞けば、看護師が手術を行うのかと思う方もいらっしゃると思います。しかし、手術は医療行為であり、看護師は医療行為を行うことはできません。手術室看護師の役割は手術を受ける患者さんの立場に立ち、手術を安心して、安全に受けられるように支援することです。

私は手術看護認定看護師として、手術を受けられる患者さんが手術室で寒くならないように、手術を行う際の姿勢で肩や腰、関節の痛みが起らないように、術中に皮膚のトラブルが起らないように、また、手術で使用する器材や機器がスムーズに使用できるようにスタッフへ働きかけを行っています。

手術が決まると、患者さんやご家族にとって不安な気持ちでいっぱいになると思いますが、その不安が少しでもなくなるように精一杯の支援をさせていただきます。

手術看護認定看護師 渡部 早人



▲手術室にて



▲後輩看護師へ指導中



▲手術中の患者さんの負担が軽くなるように、使用する枕の検討中

感染管理認定看護師

「感染管理認定看護師」は患者さん、病院職員、その他医療に関わるすべての人を感染から守る役割があります。巷では感染症の原因となる様々な病原体が溢れており、それは病院内も例外ではありません。私たちは、感染制御チーム (ICT) の一員として、(病原体を)「うつさない」「もらわない」「ひろげない」を目標に、部署や職種を超えて組織横断的な活動を行っています。毎週実施している ICT ラウンドでは、病棟や外来など院内全体の感染対策の実施状況の確認や衛生環境の維持徹底、感染症患者さんへの感染対策の確認や指導を行っています。

最新の知見に基づいた感染管理システムの構築、医療関連感染の発生状況の監視、療養環境の整備、職員への教育などを行いながら、患者さんや職員の皆様に安全と安心を提供していきたいと思っています。

感染管理認定看護師

上田 京子 岩本 悟志 宇都宮 麻美子



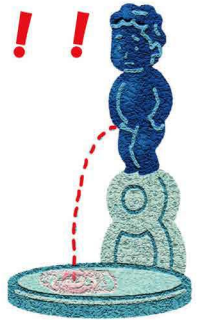
▲左から上田、岩本、宇都宮



▲院内感染事例の把握を行う ICT ラウンドの様子



▲院内感染対策に関する職員研修 (司会：岩本)



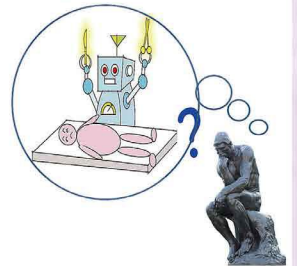
「今日、病院に行くよ。」思い切って言ってみた。
妻はゆっくり振り返り、いつもより小さな声で呟く。「もっと早く行くべきじゃないの。」
やはり怒っている。赤ワインの様な尿が続いている。
「血尿だよ。直ぐに泌尿器科を受診しなきゃ。」と元看護師の妻が言う。
「泌尿器科？俺は性病なのか？心当たりはないんだが…。」
「何を言ってるの？血尿は膀胱癌とかのこともあるし、泌尿器科は性病科とは違うのよ。」
「ダンディーな俺に泌尿器科は似合わないだろう。」
「もう！！つべこべ言わず行きなさいよ、だいたいダンディーじゃないし。」とケンカになった。3ヶ月前の事だ。結局のところ病氣と対峙する勇気が自分になく逃げていたのだ。

近くの泌尿器科を受診した。超音波検査され、すぐに総合病院に行くように紹介される。何か影があるらしい。受付番号を呼ばれて診察室に入る。担当医は若い女医だ。「いつから血尿が出ていますか〜？」
正直に3ヶ月以上前ですと答える。「え！！そんなに〜！！」ドクターとナース、医療秘書の視線が同時に突き刺さる。そんなに血尿を放置する事が悪いのか、そんなに悪い病氣なのか。
その後、お仕置きのように尿道から内視鏡を入れられ膀胱の検査。膀胱の内視鏡検査は拷問だ、と友人から聞いたことがあったが、予想外に痛くなかった。最近の内視鏡が良くなったそう。そしてCT。CTの結果はやはり最悪だった。



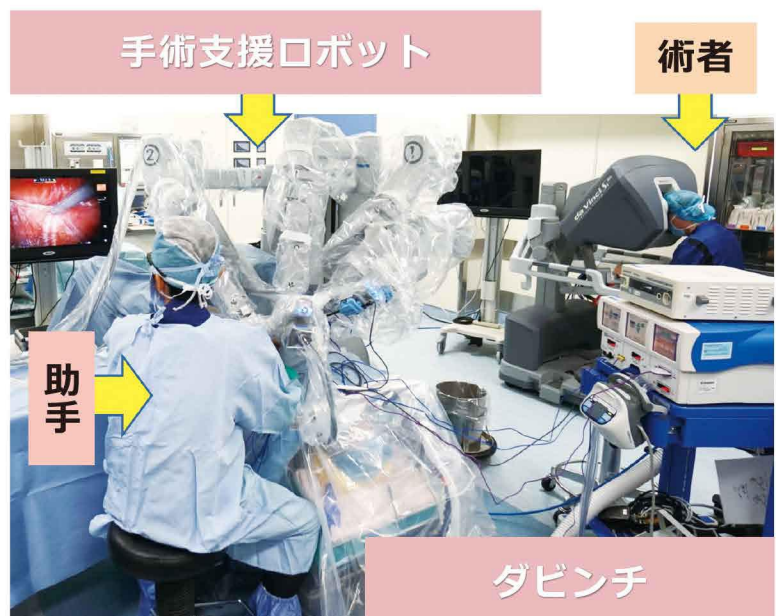
「腎臓に腫瘍があるね〜。」担当医は慣れたように言う。「がんでしょうね〜。ロボットで取りましょうね〜。」ロボットが手術？軽くめまいを覚えつつ帰宅し、妻に今日のことを伝える。

「手術が出来て良かったね、もっと悪いのかと思って心配したよ。今日は赤ワインで乾杯ね。」いやいや手術が決まって乾杯はないだろう、と思いながら前向きな妻から少し元気をもらった。「ロボットが手術するといっても操作するのは医者らしいよ。」ネットで調べてくれたようだ。まあ、その方が安心か。ロボットに治療してもらうなんて何だかSFみたいでいいよね、と強がってみるものの心の中では不安が渦巻く。



そうこうするうちに手術の日になり、気が付くと手術は終わっていた。頭はもうろうとしたが、痛みはさほどなかった。数cmの傷が5ヶ所あり、術後は一週間で退院となる。担当医が回診で傷を見ながら言う。「せっかく手術したし〜、後10年、95歳迄は生きてくださいね〜。」ん？え〜と100歳まで生きたらダメですか？

外に出るとラピスブルーの空に初夏の風が吹き抜けていった。がんと一緒に憂鬱な気分も取ってくれたのだろう、気分が爽やかだ。妻が横でささやく、「退院おめでと〜、晩御飯はステーキだよ〜。」担当医の語尾を伸ばす癖がうつったらしい。よ〜し、今日は赤ワインで妻とロボットに乾杯しよ〜。



当院の
ドクターを
紹介します

ドクターズカルテ

整形外科 飯本 誠治先生

Doctor



▲外来診察室にて



北海道に国内留学した後、2014年4月から勤務しています。整形外科は体の広い範囲の骨や関節を扱いますが、その中でも脊椎疾患を専門に治療しています。脊髄損傷のような重症の外傷から圧迫骨折のような高齢者の外傷、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症のような慢性疾患も治療しています。薬や手術は日々進歩しており、低侵襲な手術を行うように心がけています。

元々スポーツは好きで子どもの時から大学生まで野球をやっておりましたが、最近は全く野球をする機会はなくなっていました。北海道に住んでいた時は子どもとスキーやスノーボードをしていましたが、愛媛に戻ってからは全く行く機会がないので、近くで行けるスケートに行っています。まだまだ医師として進歩していけるように頑張ります。



▲冬には家族でスケート

当院の
研修医を
紹介します

Resident

1年次研修医
伊藤 恭先生

仕事以外の過ごし方は？

同期の研修医とご飯を食べに行っているいろいろな話をすることが、いいストレス解消法になっています。先日ビアガーデンで飲み会をした際には、おいしい食事とプライベートの話などで盛り上がりました。

日常気をつけていることは何ですか？

健康管理と睡眠時間です。ご飯をおいしく食べること、しっかり睡眠をとることを心がけており、日々緊張感をもって業務に取り組んでいます。

今年の目標は何ですか？

初期研修医として奉職して早4ヶ月。日常の業務にも少しずつ慣れてきました。同期研修医や指導医の先生方、看護師をはじめとする医療スタッフの皆さん、患者さん、さまざまな人とのご縁と温かさに支えられて、日々の診療にあたっています。苦しく、うまくいかないことも多々ありますが、感謝と笑顔を忘れずに、医療人として成長していきたいです。



▲当直でのひとコマ。2年次研修医に教わっています。(左側)



▲同期研修医が集まってのビアガーデン(一番左)



転入・転出医師 (R元.6.1 ~ R元.8.31)



転入

所属	氏名	専門
総合診療科	和田 悠	専攻医

転出

所属	氏名
産婦人科	井上 翔太*
産婦人科	吉田 文香
呼吸器内科	関 祥子
心臓外科	中山 泰介

所属	氏名
血管外科	瀬尾 明彦
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	本岡 太心
眼科	張 媛

※H31.4.1~R元.6.30の間、産婦人科には同姓同名の医師が在籍していました。

アレルギー情報は必ずお知らせください!!



最近、食べ物やお薬にアレルギーをお持ちになっている方が増えてきています。アレルギー体質は遺伝的な要素も関係していますが、私たちを取り巻く環境が大きく変わったことも要因のひとつとなっています。人の身体は複雑で、ストレスや偏食、感染症によって普段は出ないアレルギー反応が出ることもあります。例えば「日頃食べているもので、じんましんが出た」とか、「病院の造影検査で前回は何ともなかったのに、今回呼吸が苦しくなった」といったような場合です。

ほかにも「ラテックスを含んだゴム製品の手袋を使ったら、皮膚が赤くなったり、じんましんが出た」「キウイやグレープフルーツ、モモ

などを食べて口の中や唇の粘膜が腫れて違和感があったり、痺れたり、顔がむくんだりした」などもアレルギー症状のひとつです。

また「お薬を服用した後や、点滴をした際に、身体全体に小さな皮疹やかゆみが出た」などもアレルギーです。もしも、病院にかかった際に薬で身体に異常が出た場合は、お薬名を確認しましょう。そして、お薬手帳に書いておく、あるいはアレルギーカードを持つと自分のアレルギーを覚えておくことができますし、病院での診察時にも役立つのでいいと思います。

治療において、アレルギー情報はとても大切です。使えないお薬もあります。受診時には必ずアレルギーの有無をお伝えください。



愛媛県立中央病院 のご紹介

※表記のないところは H30 年度集計

医師・歯科医師数



232 人

※H31.4.1 現在

看護師数



808 人

※H31.4.1 現在

専門・認定看護師数

20 人

病床数



827 床

※許可病床数

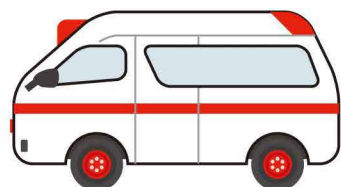
救急車での搬送件数

3,547 件

5,786 人

救急受診者数

※3次救急、2次救急



入院延患者数

219,632 人

1 日平均患者数

601.7 人

新入院患者数

18,510 人

外来延患者数

389,727 人

1 日平均患者数

1,597.2 人

紹介患者数

17,736 人

紹介率

71.5 %

逆紹介率

117.8 %

平均在院日数

11.9 日

※分析ツールにより算出

ドクターヘリ出動件数

289 件



年間手術件数 (手術室実施分)

9,297 件

外来化学療法年間実施件数

8,667 件

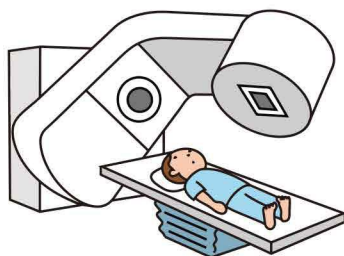
PET-CT 検査件数

3,131 件

放射線治療患者数

424 人

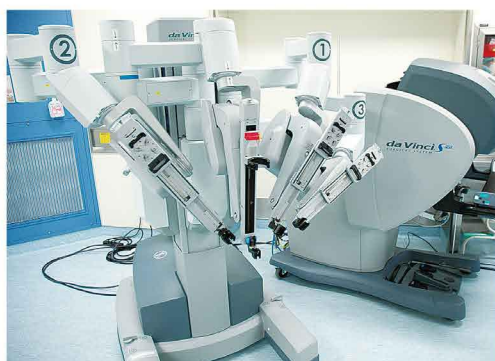
※H30年(1月~12月)



ロボット支援手術件数

189 件

※実施件数



手術支援ロボット：ダビンチ

分娩数

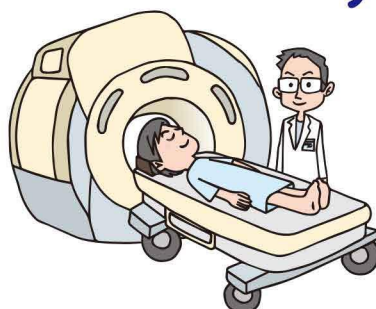
1,236 件

※H30年(1月~12月)



MRI 検査件数

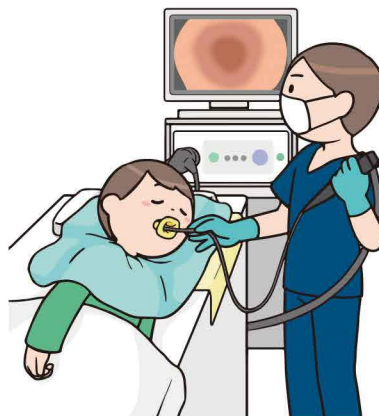
10,973 件



内視鏡検査・治療総件数

18,791 件

※H30年(1月~12月)



造血幹細胞移植件数

35 件

※H30年(1月~12月)

心臓カテーテル検査・治療総件数

1,325 件

※H30年(1月~12月)

リハビリテーション依頼患者数

3,420 件

※H30年(1月~12月)

連携医療機関紹介 ～第15回～

医療法人 いかわ整形外科

- 所在地 松山市和泉南1丁目5-8
- TEL 089-957-3331 ■FAX 089-957-3313
- 診療科目 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
- 外来診療時間 休診日 水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:30～18:00	○	○	×	○	○	×	×

- 優先診察 妊婦、6歳以下の幼児、救急患者
- 予約診療 がん患者、認知症患者、付き添いのいる90歳以上の方、施設入所者
- 【病院の特徴】 地域医療中心の救急病院での経験を活かし、整形外科全般に加え、総合医的な視点で患者さんの診療をするように心がけています。

手術が必要な疾患をはじめCTやMRI、また患者さんが痛みを訴えて来院された際の検査で見つかる各種がん（肺がん、すい臓がん、白血病など）、さらにパーキンソン病などは県立中央病院などの基幹病院に紹介させていただいています。

【病院の概要】 平成14年に、はなみずき通りに開業しました。膝変形性関節症、腰部脊柱管狭窄症など加齢にともなう疾患をはじめ、関節リウマチ、スポーツ外傷、交通事故や骨密度検査による骨粗鬆症治療から物理療法を中心としたリハビリテーションなど幅広く対応しています。

今後も地域の方に愛され、信頼され、気軽に相談されるクリニックであるように努力してゆく所存です。



医療法人 もりのぶ整形外科

- 所在地 伊予市下吾川馬塚943-1
- TEL 089-987-1411 ■FAX 089-987-1412
- 診療科目 整形外科・リハビリテーション科
- 外来診療時間 休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30 (受付は12:00まで)	○	○	○	○ 13:30まで	○	○ 13:30まで	×
14:30～18:30 (受付は18:00まで)	○	○	○	×	○	×	×

【病院の特徴・概要】 平成26年2月に伊予市(国道56号線沿い、伊予警察署付近)に開院しました。骨折などの外傷による急性期病変から腰痛・関節痛・神経痛といった慢性疾患にも幅広く対応します。より精度の高い診療を行うため、X線撮影だけでなく、エコー・骨密度測定装置・MRIなどの画像診断装置を駆使して診察を行い、保存療法で治療が可能な方は当院で検査から治療まで完結できるように心がけております。手術が必要な場合は、速やかに県立中央病院などの基幹病院と連携を図り紹介させていただきます。手術後の方には、理学療法士によるリハビリテーションも行っております。

今後も地域の方々の「運動器疾患かかりつけ医」となれるよう、日々努力していく所存です。



当院は、平成22年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。
このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。
(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

